

保育おおさか

大阪府社会福祉協議会・保育部会(大阪府保育協議会)

令和7年3月1日

No.595



発行人 森田 信司 編集人 向井 秋久

大阪市中央区中寺1丁目1-54

TEL.06-6762-9001

FAX.06-6768-2426

<https://www.niji-tumi.net/>



春がきたよ

堺市

堺東保育園

令和7年
新年互礼会

組織も個人も 脱皮しながら成長を

1月27日、シエラトン都ホテル大阪で保育部会新年互礼会を開催しました。会員施設からは、141人が参加しました。

来賓として、衆議院議員浦野靖人氏の代理で秘書の森颯之介氏、大阪府議会上谷恭典議長、大阪府・堺市・中核政令市の行政の方々にご臨席いただきました。冒頭、森田信司部会長は、「30年前の1月17日、阪神淡路大震災を経験しました。当時、保育部会の先生方と、毎週のように炊き出しに行きました。一步一步、復興へと歩むなかで我々の絆も深まり、今の保育部会の大きな原動力になっていると改めて感じています。

ですが、組織一体となって乗り越え、脱皮を繰り返しながら成長していきたい」とあいさつしました。

式典では「地域貢献支援員(スマイルサポーター)」の大阪府知事認定証交付式が行われました。大阪府 福本泰延子ども家庭局長より142人に認定証が手交され、あすなろこども園(大東市)の深見夕貴さんが認定者代表で受領されました。

また、保育海外研修の団長を務めた社会福祉法人千早赤阪福祉会の向井秋久理事長より、活動のご報告がありました。懇親会では、参加者が交流を深め、盛会で幕を閉じました。(事務局)

今年には、国の方針が量から質へと変わり、課題が山積み

社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
保育部会 新年互礼会



▶スマサポ代表受領者の
深見さん

▶森田部会長ご挨拶

シンガポールでも 日本と同等以上の幼児教育を

シンガポール日本人幼稚園は、1989年4月にシンガポール政府教育省の認可を受けて設立されました。日本人向けの幼稚園としては、シンガポールで最も歴史があります。

同園は、ウエストコーストに位置し、シンガポール日本人学校中学部に隣接し

ています。現在は約200人の園児が通っており、その多くが日本企業の海外駐在員の子どもたちです。

1万平米を超える広大な敷地のなかで、子どもたちはのびのびと生活しています。色彩豊かな中庭は、天候に関係なく活動できます。園庭や3カ所の砂場、大きなプールでは、子どもたち

ちが楽しく遊んでいて、にぎやかな声が響きます。園庭にはバナナやマンゴー、パイアといった果物の木々など、南国の



日本人幼稚園での講演後に



汽車は子どもたちに大人気



中庭で遊ぶ子どもたち

子どもたちを乗せて園内の線路を走る汽車は、子どもたちに人気があります。教育内容は、文部科学省「幼稚園教育要領」に基づいており、日本の幼稚園教諭一種免許を有する幼稚園教諭が教育を行います。年間行事は、日本の幼稚園・保育園などとほとんど変わりません。日本の

植物が多く植えられています。以前はココナツの木もありましたが、実が落ちて子どもに当たると危ないので切ったそうです。

伝統文化や四季折々の行事を体験することにより、日本人としての文化習慣を自然に理解して、日本人としてのアイデンティティを確立できるようにしています。

また、英語にふれる活動にも力を入れています。以前は、帰国後すぐに日本の学校に慣れるようにしたいという保護者が多く、日本語中心で教育をしていました。しかし近年は、「英語が話せないことで子どもに苦労をさせたくない」「海外で生活する機会を生かして、英語の環境で教育したい」という保護者のニーズが高まっています。

そこで、日本語中心の環境か、英語中心の環境かを選択できるよう、日本語クラスのほかに英語クラスを設けて、保護者のニーズに対応しています。

英語クラスでは、英語教師による楽しい遊びや歌を取り入れており、園児たちはさまざまな表現にふれて英語に親しんでいます。現在、日本語クラスの子どもと英語クラスの子どもの人数は同数くらいだそうです。園が特に力を入れている

伝統文化や四季折々の行事を体験することにより、日本人としての文化習慣を自然に理解して、日本人としてのアイデンティティを確立できるようにしています。

給食は、たいへんおいしいと評判です。

献立は、シェフと齋藤一郎園長が考える日本食が中心で、園内の厨房でシンガポール人スタッフが調理しています。シェフは日本食レストランで長年経験を積まれた方です。一方、齋藤園長は以前、飲食店で働いていたことがあります。調理師免許を取得されており、「おいしい料理や食育に関心をもっています」と話していました。

シンガポールにいても、日本のおいしいお米を食べたいという思いから、北海道の業者と直接契約を結んで「ななつぼし」を送ってもらっています。給食の写真は、インスタグラムへ毎日投稿されています。

シンガポール日本人幼稚園では、先生やお友達との関わりやさまざまな行事・体験を通して、日本を感じられることを大切にしています。シンガポールにいても、日本の幼稚園の子どもたちと同等以上の幼児教育が受けられるよう工夫されていました。

(編集委員 K・M)



いよいよ大阪関西万博開幕まで、約1カ月となりました。私が小学1年生だった昭和45年の万博では、両親に連れられて、吹田の千里山駅からバスに乗り、会場まで数回行きました。夜、バスから大きな顔を付けた高い塔を見て、少し恐く感じましたが、それが、万博のシンボル・太陽の塔だと知り、安心したことも鮮明に覚えています。

「いのち輝く未来社会のデザイン」がテーマの今回の万博。シンボルは、建築家の藤本壮介氏がデザインした世界最大級の本造建築、大屋根リングです。「多様でありながら、ひとつ」という意味が込められているそうです。

158カ国・地域と、9国際機関が参加を予定しており、来場者数見込みは2820万人だそうです。大阪万博を機に、関西経済が潤えばと期待しています。私も将来を見据えた万博に行きたいと思っています。

(編集委員 Y・S)

みんなが主役！
明るく楽しくなる
保育現場の秘訣！

保育のまど 202



ほめ育シニアコンサルタント
中園 暁子 氏

ブラッシュアップ③ チームで働く力 Teamwork

◆私のチームづくり

今年度最終回のテーマは「チームで働く力」です。「チームで働く力」と聞けば、多くの方が「コミュニケーション能力」「主体性」「協調性」「柔軟性」「信頼」など浮かぶと思います。また「チームで働く」ために「目的」を共有し、「目標」を明確にする重要性も理解されているはず。しかし、実際の現場でチーム力が発揮されなかったり、チーム力を感じられない瞬間があったりするから悩ましいのではないかと思います。

最終回は、私のチームづくりの話をさせていただきます。

私は以前、進学塾に勤めていて、26歳で教室の責任者になりました。その後、3年に一度転勤し、その都度チームづくりをしました。

責任者一年目は、私のコミュニケーション不足で、問題を一人で抱え込み、一年が終わる頃には退職と異動希望者が続出。そこから必死で学んで、実践して失敗して分かったことは、「テクニックではない、一人ひとりと本気で話しあうこと

の大切さ」でした。私は、職員と話し合いに徹しました。マイナス面しか見えなかった職員の良いところを見るようになったのもこの頃です。

一年目の失敗と、自分が引っ張るリーダータイプではないことを自覚した私は、相手の課題を解決するために、一緒に方法を考え、「やってみる」を応援しました。上司に教わった山本五十六の言葉「やってみせて聞いて聞かせて させてみてほめてやらねば 人は動かじ」がヒントです。あとは「どんな結果も笑う」。この繰り返しだった気がします。

効率は悪いし、ただ恵まれていただけかもしれませんが、それ以降の私は、部下で悩むことがほぼなくなりました。そのため、会社はいわゆる「困った人」を私の部下に配置するようになりましたが、大きく崩れることはありませんでした。しかし、転勤すると職員との関係づくりは一からです。何回経験しても、一年目は思うようにいかないことがほとんどでした。職員

の話を繰り返し聞いて、こちらの思いを伝えるだけで一年が経ちます。二年目は、一緒にやる年。波はありますが、みんなが同じ方向を向いていくのが分かり、車輪が大きく回りはじめののを感じました。三年目は、「私がいなくても大丈夫」のチームづくりが目標です。そのために大切なのは、どんなに任せること。職員一人ひとりが全体を見る力が必要になり、「年齢や経験に関わらず言うことは言う」関係性がなければなりません。そんなときの私の仕事は、「失敗のフォロー」です。黒子ですね。

こうしてチームができたと思ったときは、塾の現場も良い状態になっているから不思議です。このときの職員一人ひとりは「個の力が最大化している」状態だとも思っています。私の理想です。

◆個の力の最大化

私の思う「個の力が最大化している」状態は、それぞれが自分の仕事に主体的に取り組む、課題を克服するための努力や工夫ができ

ているときです。この状態になると、おのずと周りに気遣いができたり、言うべきことは言うという強さもちあわせたりするように思います。

職員同士「納得いくまで話す」ことも必要な過程です。みんなで仲良くするため「言わなければならぬことを言わない」とか「誰もやっていないからやらない」の状態は、まだ各々に課題が残っている状態だと思います。なぜならその段階では「互いに学ぶ」ができているとはいえないからです。人の数だけ学びがあります。「互いに学ぶ」関係性が個の力をつけます。

◆「育つ」「育てる」

種を植えてから芽が出て実ができるまで、時間がかかります。そう、育つのも育てるのも「時間がかかる」のです。それから真面目な方ほど、自分にも相手にも完璧を求めがちです。でも、この世の中に「完璧」はないのです。そして「過去と他人は変えられない」。

そこで思うのは、チームづくりにしても、仕事そのものにしても、人生にしても、人間に与えられた「話す力」をどう使うかじゃないのかと。相手にも自分にも、せっかく使うならポジティブな言葉を。伝えるならば、勇気や光につながる言葉を。そう思うのです。人は「自分を表現できている」「やりがいにつながる」「自分を表現できている」と言えますか？ そのために言葉を尽くしていますか？

◆最後に

今年度の「保育のまど」のテーマは「お互い学んでみんなで育つ」でした。皆さまにとつて、2024年度はどんな一年だったでしょうか。そして二年間、「保育のまど」を担当させていただき、本当にありがとうございました。「自分をほめる」をはじめ、少しでもヒントや実践につながればうれしいです。

今日は明日の昨日。皆さまの今日の笑顔やいきいき動かれている姿が、子どもたちの未来の光になります。皆さまの健康とご活躍を心よりお祈りしております。



枚方市

考える力と

主体性を育む

あおぎり
青桐保育園
保育所

昭

和48年創立の社会福祉法人交北会青桐保育園は、府立山田池公園からつながる田園風景が広がるのどかな場所にあります。

スパイラルガーデンや田んぼがある里山園庭は、自然と人の持続的共存がコンセプト



▲ 魅力いっぱい園庭

どは、情操教育や環境学習のきっかけになっています。園庭には、各年齢に合わせた「子どもたちを挑発する」遊具が置かれています。難易度別の遊具は、子どもが「この遊具は自分には難しい」「この高さならちよいどいい」と自分の発達の最近接領域[※]を考え、遊具を選べる環境でした。

（※）自力では難しいが、誰かのサポートがあればできることの領域

と、「手をつなごう大きな輪になろう」を標語に掲げ、乳児のクラスは、子どもに安心感を与え、基本的生活習慣の自立を目的に育児担当制をされています。一方、認知力や仲間関係が広がる幼児は異年齢混合クラスで、自ら集団や環境に関わりながら成長できる主体性を育んでいます。

（編集委員 T・I）

泉佐野市

小学校につながる
教育・保育を実践

ひねのこども園

幼保連携型認定こども園

ひねのこども園は、JR日根野駅徒歩5分の場合にあります。定員は215人で、子ども一人ひとりの育ちを大切に、保護者から信頼され、地域に愛される園を目標としています。

この2月には、全園児が生

活発表会に参加、子どもたちが舞台で表現、発表できる貴重な経験の場となりました。また、特別活動も活発で体育、鼓笛、英語の活動を取り入れています。

体育活動は、秋の運動会を目標としています。4歳児はパラバルーン、5歳児はリレーを披露しました。鼓笛活動は、市の体育館でのお披露目を目標に日々取り組んでいます。昨年度は4・5歳児がスターウォーズを演奏、大変な盛り上がりでした。英語活動は3歳から5歳まで外国

人講師の指導で基礎の単語、会話などを教わっています。また、卒園児を対象に小学生もタブレットを利用したレッスンで支援しています。

地域貢献として、地元サロンにスマイルサポーターを月2回派遣、乳幼児対象の遊びの指導や子育て相談を行っています。毎年クリスマスにはサンタさんから子どもたちへプレゼントを渡しているそうです。今後も小学校への健やかな育ちの継続と地域の子どもの成



▲ 小学校の校庭での運動会

長を願い、教育、保育活動を頑張っている」と神藤園長先生は話されていました。（編集委員 Y・M）



きょうの
一歩
と健本